

足寄町

田中千晴

1. 概要と歴史

図1 町章



出所：足寄町 HP

1.1 足寄町の地名の由来と地理・地勢

足寄町の地名はアイヌ語の「エシヨロ・ペツ」(沿って下る川という意味)に由来する。足寄町は十勝の東北部に位置し、東は雌阿寒岳を経て釧路市及び白糠町に接し、南は本別町に、西は上士幌町に、北は置戸町、陸別町及び津別町に接している。地勢は概ね山麓をもって構成され、東西 66.5km、南北 48.2km でその面積は 1,408.09k m² と 2006年 1月まで日本一広い面積であった(現在でも、町としては日本一広い面積)。気象は、十勝内陸気候の影響を受けるため、寒暖の差が極めて大きく、降水量が少なく、さらに冬も晴天の日が多く、降雪量も少なく日照時間が長くなっている。町章の由来足は足寄の「ア」と「シ」を組み合わせて、上部に翼をかたどって全国一広い町の隆盛を象徴し、下部の円で町民の融和と団結を表現している。

図2 十勝管内での位置



出所：yahoo 画像検索

1.2 足寄町の自然

地名の由来にもなっているように、足寄町は川や湖、森などの色彩豊かな自然が数多く存在し、それが見所のひとつとして、観光客なども多く訪れている。季節や天候、見る角度によって澄んだ青、エメラルドグリーン、ダークブルーと湖面の色が変わる「五色湖」、阿寒富士山麓、高山植物の群生する岩山に二乗の温泉の滝が流れ落ち、湯煙を上げる「湯の滝」など、他にも多くの魅力的な自然に恵まれている。他にも多くの美しい自然が足寄町を包み込んでおり、多くの観光客はこの美しい自然を目当てに足寄町を訪れることが多い。そして、その壮大な自然を活かして、足寄町では非常に農業や林業が盛んに行われている。

画像1 オンネトー



出所：yahoo 画像検索

1.3 足寄町の歴史

下記の年表にもある通り、足寄町は 1955 年に西足寄町と足寄村が合併したことにより誕生した。また、1971 年には過疎指定地域となり、今も過疎化が問題となっている。

平成になってもなお小学校の統合や中学校の閉校が行われており、いかに過疎化が問題となっているかがわかる。そして、2006 年には雌阿寒岳が噴火しており、1954～1966 年の間、1988 年、1996 年、1998 年に噴火している。

表 1 足寄町の歴史

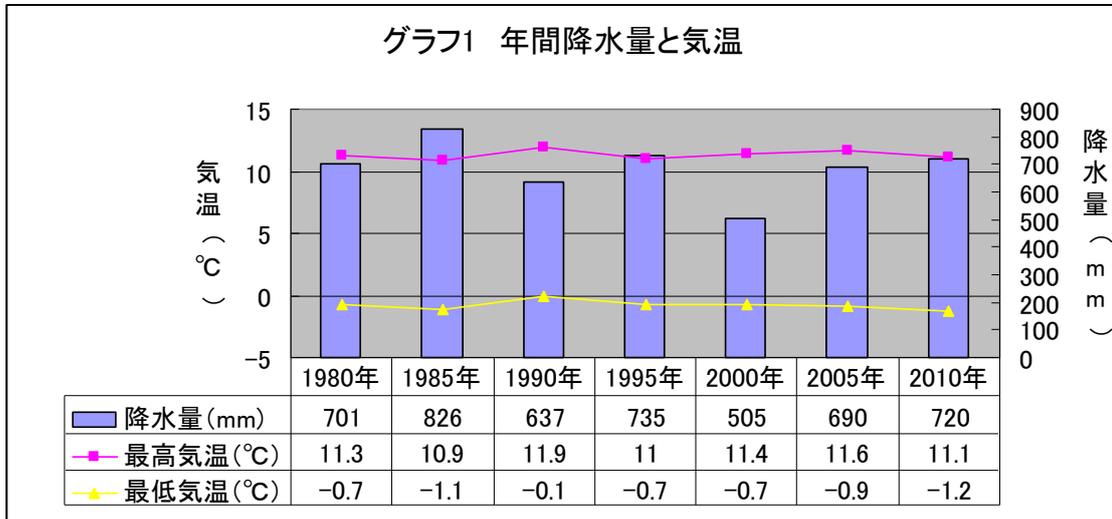
1950 年	西足寄村が町政を施行、西足寄町になる。
1955 年	西足寄町と足寄村が合併、足寄町となる。
1965 年	町章・町民歌を制定。
1971 年	過疎指定地域となる。
1975 年	町民憲章制定。
	足寄町特別養護老人ホーム開所。
1978 年	開基 70 周年～町の花・木・鳥を決める。
1983 年	町民センター完成。
1988 年	開基 80 周年記念式典。
	第 1 回オンネトー湖上コンサート開催。
	第 1 回全国足並みサミット開催。
1998 年	開町 90 周年記念式典。
2000 年	足寄小学校開校（西小・東小・中足寄小が統合）
2002 年	足寄西中学校、上利別中学校、螺湾中学校開校。
2006 年	雌阿寒岳噴火。
2008 年	開町 100 周年記念式典。

出所：足寄町 HP

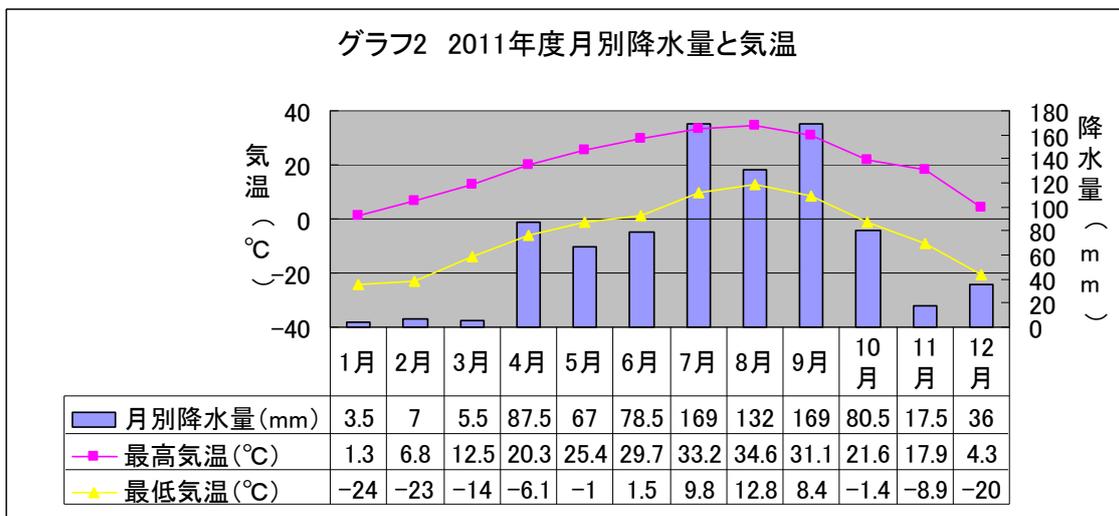
2. 足寄町の地理・気候

足寄町は十勝の東北部に位置し（東経 143°33'、北緯 43°33'）東は雌阿寒岳を経て釧路市及び白糠町に接し、南は本別町に、西は上士幌町に、北は置戸町、陸別町及び津別町に接している。地勢は概ね山麓をもって構成され、東西 66.5km、南北 48.2km でその面積は 1,408.09k m² と 2006 年 1 月まで日本一広い面積であった（現在でも、町としては日本一広い面積）。足寄町の気象は、下記のグラフを見てもわかるように寒暖の差が極めて大きく、降水量が少なく、さらに冬も晴天の日が多く、降雪量も少なく日照時間が長くなっている。

これは、十勝内陸気候の影響を受けるためである。



出所：気象庁 HP



出所：気象庁 HP

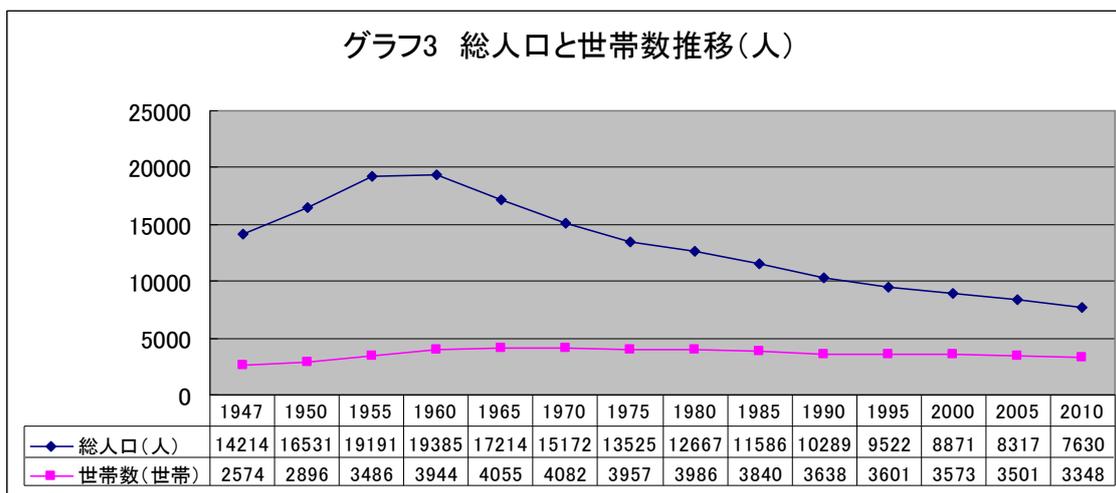
3. 人口と産業

3.1 人口世帯数推移

総人口は1950年に急激に増加しているが1960年を節目として徐々に減少している。世帯数は1914年から2010年まで急激な増減はなく、ほぼ一定を保っている。

足寄町は過疎化が目立ってきている。足寄町の自然や町並みの素晴らしさを生かして多

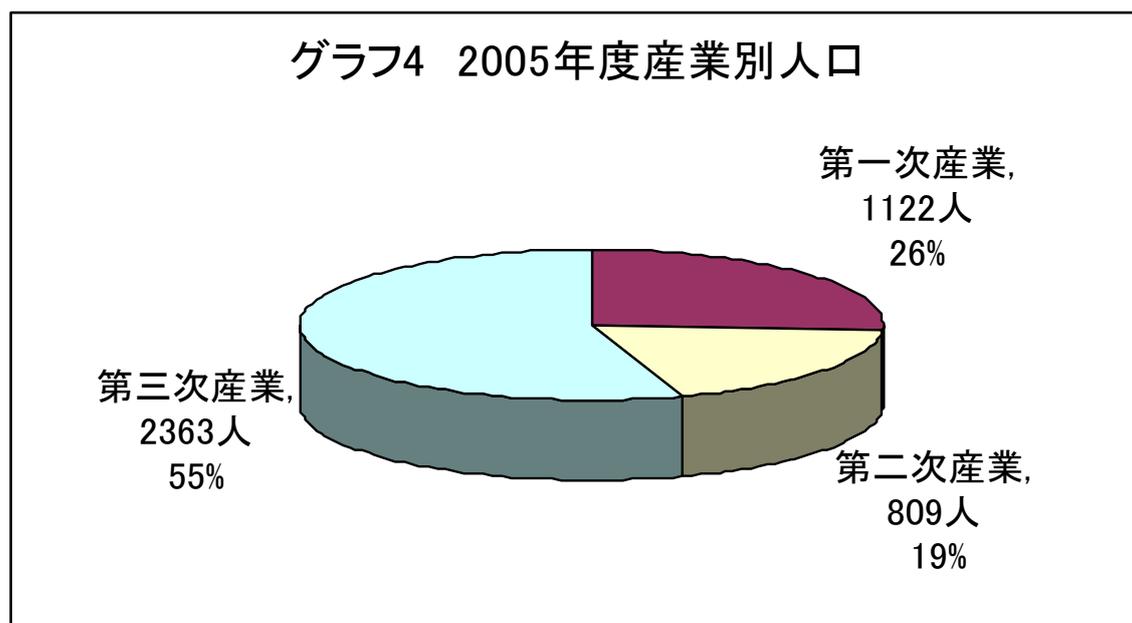
くのイベントや名所をアピールし、足寄町の良さを見せることで住民を増やしていく必要があるのではないだろうか。また、足寄町では農業などが盛んなため、他の職業に就くため町を出て行ってしまいう若者が多いのも事実であろう。将来を担う若者が足寄町で生活していくためには職業も1つの問題である。



出所：過去の国勢調査結果

注) 1955年に西足寄町と足寄村が合併し足寄町になったため、1947年・1950年は西足寄町と足寄村の人口を合計した値を記入。

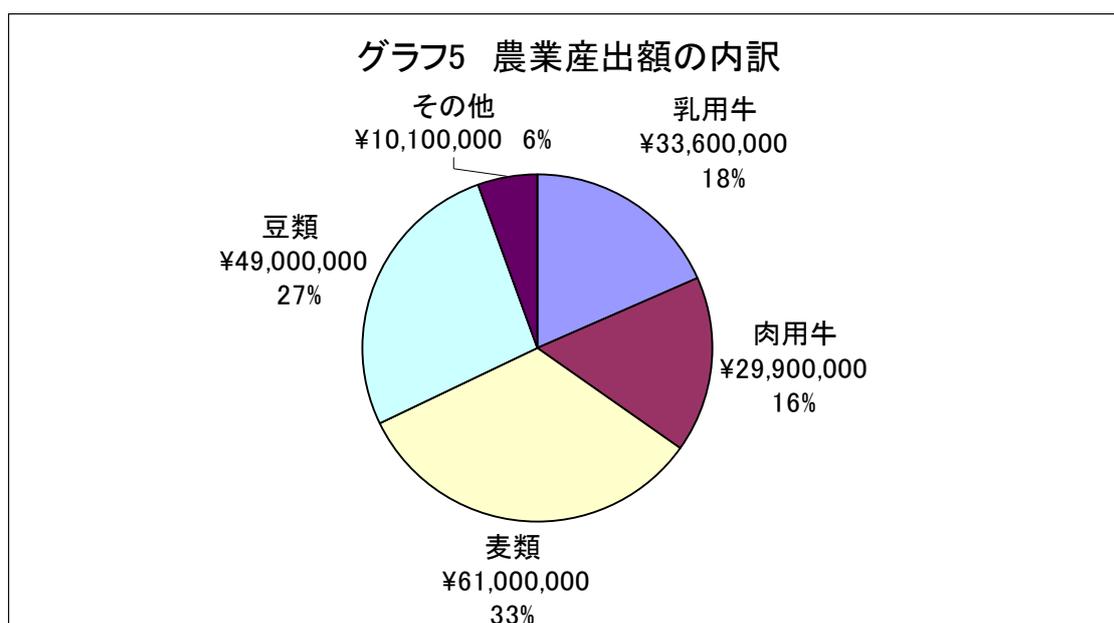
3.2 産業と産業別人口



出所：国勢調査

グラフ4の産業別人口を見ると第三次産業は全体で半分以上を占めていることがわかる。足寄町は農業が盛んである。牛の飼育が中心で飼育頭数では肉用牛が多いが生産額では乳用牛が上回る。かつては馬産も盛んだった。畑作はテンサイと小麦が中心でバレイショ、インゲンなども生産され、広い町域の8割を山林が覆うため林業が非常に盛んである。林業は足寄町を支える非常に大切な産業であり、足寄町は林業の町として有名。

3.3 農業



出所：わがマチわがムラ

足寄町では、乳用牛、肉用牛、麦類、豆類がバランスよく生産されており、農業の盛んさがあらわれている。しかし、比較的野菜類の生産は少なめである。この特徴、良さを上手く利用して町の活性化に繋げていく必要があるのではないだろうか。また上記で示した気温、降水量の変化も足寄町の良さであり、産業と上手く関連させることのできる大事なポイントである。

足寄町で農業が重要視されたのは、1968年12月20日発行の「足寄町総合開発計画書」の記述が大きく関係している。町は140k㎡余の全国一広大な面積をもっているが「総面積の約82%が山林用地であり、農用地としての活用はわずか13.2%である。また面積に比して人口密度が低く、1k㎡当り12.3人であり(全道の人口密度65.9人)全道で最も人口密度が低く、近年さらに産業構造の高度化、人口の都市集中などの影響により、農村人口は過疎の傾向にある。本町の、こうした産業構造の後進性は、地域開発、社会機能の立ち遅れによるものであるが、町には土地、山林、水利、電力、観光等の資源が豊富に包蔵されている。交通網も整備されており、道東地域における三地域経済圏の接点にあり、さらに道央

を結ぶ産業、観光道路としても、交通の要衝として重要な地位に恵まれている。したがって、このように本町に包蔵される資源を開発し、第一次産業を主体とする地場産業の開発を促進し、第二次産業、第三次産業の発展をはかり、遅れた社会機能を充足してゆくことが町発展の基本的課題である」としている。このように、足寄町の実態が認識され、向かうべき進路が定まった。

3.4 林業～森の町足寄町～

足寄町は林業も非常に有名だ。足寄は町も広いが、森林も、けたはずれに広い。国有林 7 万 9545ha、9 州大学演習林 3735ha・町有林 8787ha・私有林 2 万 5550ha、計 11 万 7617ha。(昭和 47 年現在)足寄町の土地面積が 14 万 69ha であるから、町の 84.01% までを森林が占めていることになる。町は 1971 年 4 月「森の町」らしく、出生記念植樹の規則を制定した。子供が生まれた家庭の希望により苗木を贈る制度で、初年度は 29 人にカラマツ・ウメ・サクラ・エゾマツ・トドマツ・ライラック・ナナカマド・オンコ(アラギ)など約 2000 本が無償交付された。

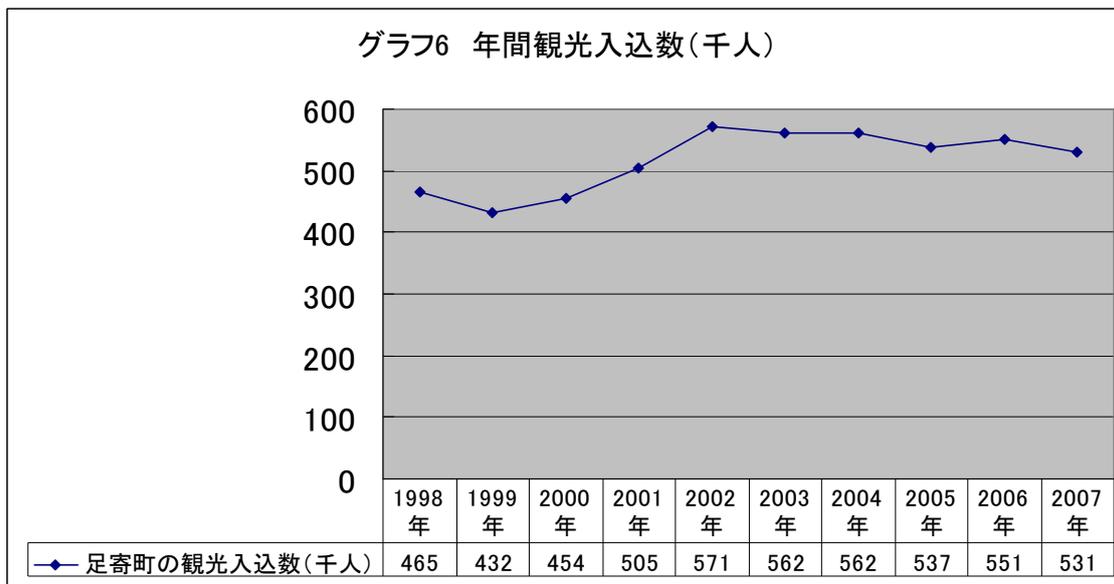
画像 2 足寄町の森林



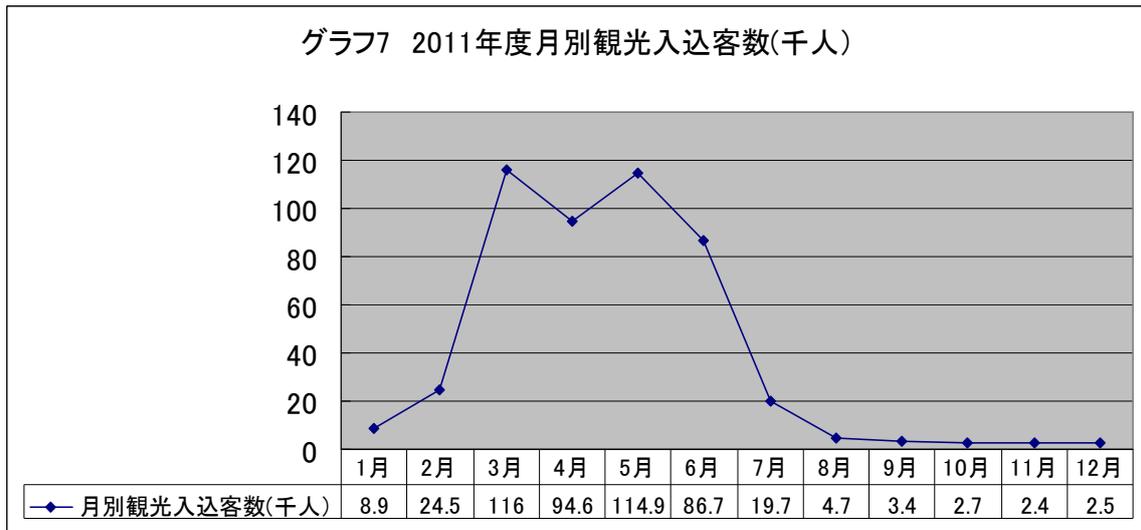
出所：yahoo 画像検索

4. 足寄町の観光

4.1 観光入込客



出所：足寄町地域公共交通総合連携計画



出所：観光入込調査報告書

道の駅あしよろ銀河ホール 21、足寄動物化石博物館、里見が丘公園、オンネトー（北海道三大秘湖の一つ）、足寄カマンベールチーズ工場、雌阿寒温泉（国民保養温泉地）、芽登温泉、ラワンブキ（北海道遺産：日本一大きなフキ(蔞)）、足形歩道、松山千春の生家など多くの観光地、名所があり、過去 10 年間の観光入込数を見ても客足が衰えることがない。また、グラフ 7 から読み取れる通り足寄町は夏型観光である。観光地としてアピールしている場所は花や滝などをメインとしているため、夏にピークを迎える場所が多いからだ。四季折々に訪れてもらう通年観光への脱却はかり、1 年を通して観光客が訪れるようになれば足寄町全体が活性化されていくだろう。

4.2.1 観光名所 里見が丘公園

足寄町市街から 3 km、町の裏山にあり展望台からは足寄市街から仙美里ダム、愛冠までのパノラマが楽しめる。特に前方遙かに聳える雌阿阿寒連山の眺めが素晴らしい。公園内には桜 1000 本、ツツジ 10000 本、スズランやアヤマメなどが植えられている他シバザクラの名所となっている。またキャンプ場が整備され花の季節には立ち寄りを勧められる名公園。
→北海道足寄郡足寄町里見が丘

画像 3 里見が丘公園



出所：足寄町を巡る旅 HP

4.2.2 カネラン峠

国道 241 号を足寄市街から阿寒方向に向かい、上足寄で左折し足寄川沿いの町道を進んでいくと砂利道になり道幅も狭くなる。林間を縫う様に登って行くとやがて陸別町との境界

画像 4 カネラン峠



出所：足寄町を巡る旅 HP

にあるカネラン峠に行き着く。峠付近は秋の紅葉が綺麗で阿寒の山並みも良く見える。峠を宇遠別沿いに下り陸別側に抜けるとすぐに銀河の森天文台が見えてくる。

4.2.3 足寄の滝巡り

足寄町には10ヶ所以上の滝が有るが、気軽に行ける滝となると白糸の滝、白藤の滝、トブシの滝くらいである。湯の滝は山道の整備が良い、朝霧の滝、巨岩の滝は歩行距離は短い。他はワイルドな滝巡りとなる。最低熊対策と防虫対策はしていくこと。

画像 5 滝



出所：足寄町を巡る旅 HP

4.2.4 愛の泉

元『ふるさと銀河線』の愛冠駅前にある『愛の泉』は東屋に守られてひっそりと佇んでいる。国道を右折して駅に向かうと右側に駐車スペースが有る。愛冠を訪れたカップルは幸せになれると言う伝説が生まれた場所で、王冠型の駅舎をバックに結婚式を挙げたカップルもいたと云うがふるさと銀河線が廃線となって残されたのは泉だけ。

画像 6 愛の泉



出所：足寄町を巡る旅 HP

4.2.5 その他

また、観光地とは違うかもしれないが足寄町出身の歌手、松山千春の実家にも多くの人々が訪れている。また、足寄町の有名なものとして螺湾フキが挙げられる。足寄町の東に位置する螺湾地区には、「日本一大きなフキ」として全国的にも有名な「螺湾フキ」が自生している。世界には約20種ほどフキの仲間があるが、日本で育っているのは、フキとアキタブキ（オオブキ）のみ。普通、食用として利用されるワセフキやミズフキは前者のフキ、足寄町螺湾地区で育つ大きな螺湾フキは、後者のアキタブキと同じものとみられているが、この螺湾地区の沢沿いに群生するフキは、草丈2~3m、茎の直径が10cmにもなり（かつては草丈4m、葉の最大径が2mにも達していました）、アキタブキよりもずっと大型のものばかりなので、もしかしたら別のものなのかもしれない。砂質の土壌と豊富な螺湾川の水資源、周辺の樹林によって、これほど大きく育つと考えられている。螺湾フキは北海道遺産にも認定されている。

画像 7 松山千春の実家



出所：yahoo 画像検索

画像 8 螺湾フキ



出所：足寄町 HP

5. イベント

5.1 足寄ふるさと花まつり、道の駅まつり

足寄ふるさと花まつりは足寄町里見が丘公園の木桜のライトアップを1週間程度実施し、5月最終日曜日に芝桜・つつじを楽しみながらイベント・焼肉など町外・町内の人が楽しめる場を提供する。

道の駅まつりは道の駅あしよろ銀河ホール 21 を会場に、町に賑わいを創出し町民や観光客に町の PR を行うおまつりで、(特産品の販売、イベント、フリーマーケットなど)。

画像 9 花まつり



出所：足寄観光協会 HP

5.2 足寄ふるさと盆踊り・両国花火大会

ステージショー、賞金つき仮装盆踊り大会、子ども盆踊り大会、お楽しみ抽選会、花火大会などが予定されている。

5.3 ウッドキャンドルナイト

足寄町の森林資源であるカラマツ材を有効活用したウッドキャンドルやアイスキャンドルを灯すイベント。

画像 10 ウッドキャンドルナイト



出所：足寄観光協会 HP

5.4 雌阿寒温泉スキーハイキング

歩くスキーとスノーシューで、冬の阿寒国立公園雌阿寒温泉・オンネトー地区の自然観察と森林浴を体験する。終了後は、温泉で休養。

6. 足寄町の有名人～松山千春～

北海道夕張郡栗山町出身の父・松山明と地元出身の母・美代子の次男（第三子）として足寄に生まれる。姉・弟の三人兄弟。長兄は乳児期に肺炎で早世している。生後間もなく股関節脱臼と診断され、札幌の北海道大学附属病院に半年間入院。この時に父・明は入院費捻出のため多額の借金を背負うことになり、その後の返済が家計を圧迫。このことが幼少期の人格形成に大きく影響を及ぼしている。その後、足寄西小学校を経て足寄中学校に入学。

フォークソングとの出会いは小学校 5 年生。幼なじみの紹介で知った岡林信康が、足寄で弾き語りのコンサートを開き、聴きに行った松山に強烈なメッセージを残したことに始まる。

父・明は、1954年に足寄町でたった一人で旬刊紙『とち新新聞』を創刊し主筆を務めた人物(なお同紙は1984年に休刊した)。しかし経営(=家計)は苦しく、特に1965年には当時の足寄町長の不正を紙面で取り上げたことで裁判沙汰となり、町長からの圧力で購読者数が大きく減少し、松山も納豆売りをして生活費を稼がねばならないところまで追い込まれた(なおこの裁判は1969年にとち新聞側の勝訴で終わっている)。松山は足寄高校では卒業時に首席となるなど成績は優秀で、担任からは大学進学を勧められていたが、このような苦しい家計を踏まえ「早く働いて父を助きたい」との考えから大学進学を断念している。

画像 11 松山千春



出所 : yahoo 画像検索

高校時代はバスケットボール部に所属しており、当時は十勝地区で「シュートの鬼」の異名を取ったという。練習ではフリースローを75回連続で成功させたこともある。しかし当時の十勝地区では帯広柏葉高校が圧倒的な力を持つ強豪として立ちはだかっていたため、足寄高校はいつも地区2位で全道大会進出が叶わなかった。

高校卒業後は、北見市に出て、叔父が経営する小料理屋の手伝いとクラブ(ストリップショーも兼業)のバーテン兼照明係を行いながら、叔父から下宿提供等の援助を受け普通自動車免許を取得。さらに合間をみて作詞・作曲を行う。その後一時足寄に戻り、父親の仕事を手伝いながら「フォーク音楽祭」に応募。生涯の“師”と仰ぐ竹田健二と出会うことになる。その後、芸能界で活躍し、足寄町自慢の有名人となった。また、上述したように松山千春の実家は観光地としても有名で、町の活性化に大きく貢献している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

■参考ホームページ■

足寄観光 HP : <http://www.ashoro-kanko.jp/events/index.html>

足寄町史 : http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/asyoro_sonotanosa-nngyou.html

足寄町 HP : <http://www.town.ashoro.hokkaido.jp/main/kanko/index.html>

足寄町地域公共交通総合連携計画 : <http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/kakuhoijikaizen/sougoujigyou/hojoseido/renkeikeikaku/asyororenkeikeiku.pdf#search='足寄町の観光客数>

足寄町を巡る旅 : http://hiro.lolipop.jp/tokathi/asihoro/asihoro_11.html

Wikipedia : <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

過去の国勢調査結果 : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/001ppc/co.htm>

観光入込客数調査報告書 : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomitop.html>

国土交通省 気象庁 HP : <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

畜産の情報 : <http://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/2009/sep/spe-01.htm>

北海道観光情報サイト : <http://www.bfh.jp/area/city/151/>

町村 HP : <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-04/647/index.html>

Yahoo 検索 : <http://search.yahoo.co.jp/search?ei=UTF-8&fr=neciec7&p=yahoo>

わがマチわがムラ : <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/01/647/index.html>